

## 提 言

### 1. シニア世代のマンパワー活用について！！

ふるさと創造大学は、本年も関心の高い健康講座など9回の講座を開設し、真の豊かさや潤いのある生活の創造に貢献して参りました。多可町においても、少子高齢化にともなう超高齢社会の多様な地域課題に対応することが求められ、健康寿命の延伸、健康格差の縮小などに向け、地域包括支援事業や、様々な生涯教育講座、健康福祉講座などが実施されています。また、今年度より始まった「住民の地域互助活動向上に資する住民研修会（コークゼミ）」でも指摘されましたが、医学や科学的知見により、高齢者の交流をとまなう地域活動への参加は、外出や会話の機会を増やし、閉じこもりや鬱・認知症になるリスクを低下させていく大きな要因（心身の健康が保たれ、結果として健康寿命が伸びる）となっており、あわせて、医療費や介護費用を減らし現役世代にかかる負担を軽減、社会的費用の抑制に役立つとされています。

2025年問題が直前となった今日の高齢者、とりわけシニア世代（\*65歳から75歳まで）のライフステージを考えると、積極的に様々な生涯学習講座に参加し、地域貢献をしながら、やり甲斐・役立ち感を高めていこうとするシニア世代がいる一方、個を優先し、趣味や健康に関心を寄せるも、地域（他人）とは無縁の社会で、生活を享受するシニア世代も見受けられます。しかし、熟練された職能・技能スキル、伝統・文化・芸術についての豊かな見識、また、組織運営のリーダー的資質・経験知を持ち合わせるなど能力や意欲があるにもかかわらず、地域の中で、本来の力を発揮できないままにいるシニア世代が、多くおられることも事実です。当大学の受講生も男性が少ないことが課題ですが、男性の社会参加が少ない事実は、社会的損失ともいえます。

本町の人口構成（高齢化率：65歳以上の占める割合（国立社会保障・人口問題研究所将来推計）：2015年＝34%、2020年＝38.5%、2025年＝42%）からして、将来の超高齢社会への対応にあたって、「高齢者を支える地域社会」だけではなく、「高齢者が支える地域社会」づくりの視点が、欠かせないものと思われます。その認識を立てば、シニア世代がその中核を担うことになり、その意味で、この有能なマンパワーを発揮するシニア世代に焦点をあてた人的資源活用の具体的な施策が必要だと考えます。

本町には、生涯学習人材バンクや社協ボランティア、様々な学習講座、健康福祉事業（リーダー研修・出前指導）などの受け皿があり、それらを利活用するシニア世代もいますが、もう一歩進んだ行政の積極的なアプローチ（特に男性シニア）を求めます。シニア世代のニーズを調査・把握し、どのようにシニア世代を活かしていくのか、全体構想＝グランドデザインを創出し、あわせて、誰もが気軽に参加・活躍しやすい具体的な取組を考えていただくことを提言します。